

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 満 谷 寛 |
| 学位の種類 | 医学博士 |
| 学位授与番号 | 乙 第 1834 号 |
| 学位授与の日付 | 昭和62年 9 月30日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当） |
| 学位論文題目 | CATECHOLAMINE CONCENTRATIONS OF FETAL BLOOD AND AMNIOTIC FLUID DURING LABOR （分娩時の臍帯動脈血，羊水中カテコラミン濃度および胎児血液ガスとの関連について） |
| 論文審査委員 | 教授 産賀敏彦 教授 木本 浩 教授 小坂二度見 |

学位論文内容の要旨

臍帯動脈血 catecholamine(CA)値は、分娩stress のない選択的帝王切開例に比較し経腔正常分娩例で高く、臍帯動脈血pH 7.25 未満の経腔分娩 stress例ではさらに高値となった。またCA値と動脈血pH, PO₂ は負の相関を示した。

羊水中CA値は選択的帝王切開例、経腔分娩正常例、経腔分娩stress例の順に有意に高値となったが、正常分娩第1期後半までの羊水中CA値は選択的帝王切開例と差が認められず、分娩にともなう胎児stressは分娩第1期後半以降に急速に負荷されると考えられた。また羊水中CA値は臍帯動脈血CA値と正の相関を示し、さらに羊水中norepinephrine値と臍帯動脈血pH, PO₂ には負の相関が認められた。しかしepinephrineでは有意な相関は認められなかった。

以上より、羊水中CA値、特にnorepinephrine値は胎児のhypoxia, acidosisに反応した胎児の交感神経・副腎髄質系の動態を反映している事が示唆された。羊水中CAの測定は分娩中における、より正確なfetal stressの診断に役立つものと考えられる。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は分娩時の胎児ストレスに関する臨床的研究であるが、羊水中カテコラミン、特にノルアドレナリンの濃度が、胎児ストレスの状態をよく反映することを明らかにし、臨床的に重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。